

セラミックス岡山

CERAMICS OKAYAMA

9
2020

就任ご挨拶



理事長
矢吹 巧

今年7月1日に就任し、自宅のある岡山市南区からマイカー通勤しています。旭川、吉井川をはじめ広大な岡山平野を東西に横断し、豊かな自然環境を感じつつ備前市に入ると備前焼の煙突や山々の優しい緑が迎えてくれます。

備前市のホームページによると、備前の工業の中心は耐火物製造業。明治10年頃に開発された耐火レンガの生産が、昭和40年代までの発展を支え、オイルショックや鉄鋼業界の不況に伴う構造不況色が強まった中でも全国生産量の約3割強を占めるとあります（現在も全国生産量の3分の1を占めている）。耐火物は文明社会を支えるなど社会生活に不可欠な物であり、その重要性は今も変わりません。

岡山セラミックス技術振興財団は1990年に誕生。日本で唯一の耐火物に関する公的研究機関として、耐火物関連業界のご要望に応えるべく耐火物技術を基盤とした研究開発等を行っています。

研究開発では、従来の製品開発に加え、耐火物の使用技術研究にも力点を置き、高性能で効率の良い測定装置の開発など新たな評価技術の確立を目指しています。

また、人材育成にも注力しています。これまで、新入社員向けの耐火物基礎学問研修を12回開催し、延べ3,500人以上の技術者育成を行ってきました。今年8月には、耐火物の熱力学にスポットをあてた「TAIKABUTSU中級講座」を開催し、高機能な新製品開発に貢献できる人材育成を行うことが出来ました。

さらに、普及啓発の一環として、中級講座に使用するテキストを新たに発刊。7種類の既刊の技術書とともに耐火物関連事業における技術の高度化を進めています。

耐火物産業の現況を見ると、耐火物の主要なエンドユーザーである国内鉄鋼メーカーが、米中摩擦や中国などの追い上げ、その上に今回のコロナ禍と苦戦を強いられており、大変厳しい時期を迎えています。

このような中、当財団には県内外から約4千件の技術相談が寄せられてきます。機器の不足や専門外などの理由で期待に応えられていない部分もあり、名古屋市のファインセラミックセンターや県内の大学等とネットワークを形成。関係先の紹介など相談者の期待に少しでも応えられるよう努めています。

今後とも、しっかりと足下を見つめながら、従来からの研究開発は基よりニーズの把握や情報分析に努め、関係する皆様のご支援とご協力の下、耐火物関連産業の発展を共に目指し、地域産業の活性化を図ってまいりたいと考えています。

CONTENTS

研究紹介	2
「FactSageによる Al_3BC_3 の合成およびCOガスとの反応の検討」	
OCCにおける各種分析手法	4
「蛍光X線分析装置 ZSX PrimusIV (2)」	
設置機器紹介	6
「耐火物特性解析システム SolidWorks」	
行事報告	7
書籍紹介	8

OKAYAMA ■■■

CERAMICS ■■

CENTER ■■■■

岡山セラミックスセンター